第80回日本循環器学会学術集会 ファイアサイドセミナー27

BNP ; too high, too low

座長

桑原 宏一郎 先生
京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 講師

演者

中川 靖章 先生
京都大学医学部附属病院 循環器内科 助教

吉村 道博 先生
東京慈恵会医科大学 内科学講座 循環器内科
主任教授

日時

2016年**3**月**19**日(土)
19:00～20:00

会場

【第16会場】仙台国際センター
展示棟1F 会議室3

ファイアサイドセミナーはチケット制です。

- 共催セミナープレレジストレーションを行います。
  詳しくは学会ホームページをご確認ください。
- 開催当日も下記受付にてチケットを発行いたしますが、数に限りがございます。
  ご了承ください。
  配布場所、日時：
  ①仙台国際センター 会議棟 2 階ロビー　3月19日(土) 7:00～18:30
  ②仙台市民会館 2 階 休憩コーナー脇　3月19日(土) 7:45～18:30
- チケットはセミナー開始５分後に無効となります。

共催 第80回日本循環器学会学術集会／塩野義製薬株式会社／協和メデックス株式会社／東ソー株式会社／株式会社LSIメディエンス／アボット ジャパン株式会社／積水メディカル株式会社／富士レビオ株式会社／アリーア メディカル株式会社

BNP

BNP;too high, too low

座長の言葉

京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 講師 **桑原 宏一郎**先生

1988年に松尾・寒川が発見したBNPは循環器系疾患患者さんの診断に欠かせないツールとなり、その血中濃度の増減を患者さんと共有し一喜一憂することが日常となっている。さらに、その日常臨床における目安値も本邦の研究成果が普及し、BNPはますます使い易い検査となった。

しかし、心臓に特異的で病態応答に優れるBNPであってもその測定値のさらに深い解釈に迷うことが無い訳ではない。今回のセミナーではそのBNP値の高値と低値の意味について最先端の研究から示唆を受けたい。

演者1

京都大学医学部附属病院 循環器内科 助教 **中川 靖章**先生

我々が実施しているBNP関連ペプチドの血中動態及びその分泌機構解明とその臨床応用を目指した研究では、BNPはその前駆体とともに血中に分泌されていることが分かっている。両者の分別定量の結果、現在一般に用いられている測定系において単に「BNP値が高い」と言ったときに幾つかの解釈が可能であることが分かってきた。

今回のセミナーではこれまでの研究成果の一部を紹介するとともに、BNP高値である場合において、最新の研究成果に照らし合わせて何が考えられるかを考察してみたい。

演者2

東京慈恵会医科大学 内科学講座 循環器内科 主任教授 **吉村 道博**先生

治療薬が目的通り働き、所定の効果を発揮するかを知るための血液検査は重要である。その観点で心不全治療において、血中BNP濃度の測定が最も有用な検査手段であることに多くの異論はないと思う。

近年は心不全診療だけでなく、多様な疾患の治療や健康診断においても心臓の状態をみる上でBNPを用いる研究が進んでおり、当然のことではあるが多くその測定値は低濃度である。

我々はBNPが比較的低濃度で推移する場合にも、治療の働きや効果や病態を精密に反映していると考えており、その際にはこれまでの解釈とは異なる観点からその測定値の意味するところを読み解かねばならない。今回のセミナーではその方法の一端をお話しさせていただきご議論いただきたいと思う。